

太田フィルハーモニー交響楽団

第12回 演奏会

Ota Philharmonic Orchestra

2010年8月8日(日)

開演 14:00

太田市新田文化会館・エアリスホール

主催：太田フィルハーモニー交響楽団

後援：太田市教育委員会

【ご挨拶】

本日は、太田フィルハーモニー交響楽団第12回演奏会にお越し頂き大変ありがとうございます。
太田フィルは、2004年の第5回定期演奏会より太田市の特別な援助から独立し、一般の社会人オーケストラとして、14回の演奏会活動をしながら7年目に入りました。この間、よちよち歩きの(失礼)多くの初心者の方々にも入団していただき、一方ではいろいろな指揮者の先生にご指導をしていただきながら、楽しく(時には苦しく)いろいろな曲に取り組んでいます。
今回は、群馬県が誇る群馬交響楽団で27年間もコンサートマスターを務められた大御所、風岡先生を指揮者に、また東北のご出身で幅広く活躍中の西村先生をピアノ独奏にお迎えしました。

さて、演奏会本番もそう遠くはないある日の練習のことですが、“英雄”の第二楽章の風岡先生のタクトが降りて数分間、とても「この世のものとは思えないほど」ひどい演奏で練習が始まりました。譜面ズラは難しくもなくゆっくりとした葬送行進曲ですが、全く上手いきませんでした。でも2時間の練習が終わるころには、風岡先生の魔術により、(個人的な感想ですが)感動的で素晴らしい演奏に豹変したのです。もちろん風岡先生の魔術によるところが大きいのですが、別に他にも大きな理由があると思っています。太田フィルは演奏技術面では玉石混交ですが、近頃は老若男女お互い自由に言いたいことを言い合ってそして仲が良く“息を合わせられる”ようになってきていると思います。演奏で“息が合い”気持ちを一つにして表現できることはたいへん大切で、聴いて下さる方々に共感していただけるかどうかは演奏技術面と同じくらい、あるいはそれ以上に大切だと思っています。

ところで、これからの太田フィルは、太田市や地域の皆様のご支援を賜りながら、ますます太田市に根付き、地域の皆様とも大いに息を合わせられる社会人オケに成長して行きたいと考えています。楽団員を増やして演奏を楽しむことはもちろんですが、それにも増してより多くの方々に演奏を聴いていただき感動を共有できるようになれば最高です。どうぞ本日も、お聴き苦しいところは多々あるとは思いますが、息を合わせてお楽しみいただければ幸いです。

太田フィルハーモニー交響楽団
団長 大竹 実

【プロフィール】

指揮 風岡 優



高崎市出身。私立新島学園(安中市)を経て国立音楽大学入学。
'73年同大中退と同時に群馬交響楽団(群響)にコンサートマスター要員として入団。
'75年7月、文化庁派遣在外研修生として渡欧。ウィーン市立音楽院入学。
'77年7月帰国。群響コンサートマスター就任。
群響入団時より、オーケストラとの共演等ソロ活動の他、'73年・'74年には計5回の「二重奏ソナタ連続演奏会」を、又、帰国後は「ベートーヴェン・ヴァイオリンソナタ全曲演奏会」をいずれも東京文化会館において開催。その後も石橋メモリアルホール等におけるリサイタル、バッハ無伴奏ソナタ・パルティータ全曲演奏会など「ヴァイオリン・ピアノ二重奏ソナタ」を中心とする演奏活動を積極的に行なってきた。
カール・ライスター、モーリス・ジャンドロン、ヨセフ・ハーラ、ズテニェク・ティルシャル、デヴィッド・ゲリングス、神谷郁代、伊藤 恵、豊田耕児、江藤俊哉、その他内外アーティストとの共演も数多く重ねている。
これまで、風岡 裕、鷲見四郎、堀 伝、ヴァルター・パリリの各氏に師事。
2004年9月群響を退団。現在ソロ・室内楽を中心に活動。
2007年5月より群馬交響楽団アドヴァイザー。
2008年4月より群馬交響楽団常務理事(非常勤)
室内合奏団「アンサンブル“クヴェレ”」主宰。
足利ユース・オーケストラ講師。

ピアノ 西村 康信



盛岡市に生まれ仙台市に育つ。宮城県立仙台第一高等学校から東京音楽大学へ進み、卒業後は同大学研究科を修了。またポーランド、スイス、日本等国内外のマスタークラスでも多くの研鑽を積んだ。第23回霧島国際音楽祭において特別奨励賞ヤマハ賞受賞。大学在学中より室内楽奏者として数多く活動しているほか、現代作品の演奏にも精力的に取り組んでおり、特に郷里の盛岡市において行っている、20世紀以降の作品を中心としたプログラムによるユニークなコンサートのシリーズは、地元各紙をはじめ、各方面より高い評価を受けている。

W.A.Mozart : 歌劇《魔笛》序曲 K.620

E.Grieg : ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16

I Allegro molto moderato

II Adagio

III Allegro moderato molto e marcato

～ 休憩 ～

L.v.Beethoven : 交響曲第3番 変ホ長調《英雄》Op.55

I Allegro con brio

II Marcia funebre:Adagio assai

III Scherzo:Allegro vivace

IV Finale:Allegro molto

【曲目紹介】

Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791) 歌劇《魔笛》序曲 K.620

モーツァルトが生きた時代、ウィーンの音楽界はイタリア至上主義であって、イタリア人やイタリアの音楽でなければ認められない風潮があったと言われる。当然オペラはイタリアの形式に則り、イタリア語でなければならなかった。そのような環境の中、モーツァルトはイタリア語によるオペラを書き続けていたが、それまでとは一変してこの《魔笛》ではイタリア語を使わず、ドイツ語によるジングシュピール（歌芝居）という形式で発表した。これは、オーストリア人である事の誇りと、イタリア人ばかりがチャホヤされる音楽界への不満がそうさせたのではないかと想像する。因みに、モーツァルトの死因として当時宮廷楽長だったサリエリによる毒殺説が一時期注目されたが、イタリア人でなければ認められなかった時代にイタリア人のサリエリがモーツァルトを妬む理由はどこにも無く、この説は例えるならば巷で人気のマイナスイオンの様に、余りにも誇張された説、若しくは完全なデタラメであり、業界の売り文句に過ぎない。

脚本はモーツァルト自身が書いたとされる。大蛇に追われて気絶してしまった情けない主人公が都合良く難を逃れたり、当初被害者的な存在だった夜の女王が最終的には諸悪の根源の様に扱われたりと、はっきり言って滅茶苦茶な筋であるが、それが意味するところはフリーメイソンの思想の反映であると考えられ、この事は近頃有名になりつつある。

Edvard Hagerup Grieg (1843–1907) ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16

日本ではシベリウスと並んで北欧を代表する作曲家であるグリーグの代表作。悲劇的場面で曲冒頭が使われる事も多かったが、真面目な悲劇ではまず使われないだろう。そんな背景から曲全体は知らなくとも《運命》並みに有名な部分である。そのせいで悲劇的な印象が付随する曲であり、3楽章なんてまるで怪獣でも出て来そうな雰囲気すら感じさせるのだが、それでもロマン派に有りがちな悲劇の主人公的要素を感じさせないのは、この曲がグリーグにとって結婚、第一子誕生という幸福に満たされた時期に書かれた事も影響しているだろう。構成が似ている事や同じイ短調である事からシューマンのピアノ協奏曲が引き合いに出されるが、グリーグの素直な書法もこの音楽が精神的に健康である事を窺わせる。

Ludwig van Beethoven (1770–1827) 交響曲第3番 変ホ長調《英雄》Op.55

前出のモーツァルト毒殺説やチャイコフスキーの自殺説等、一昔前に有名となった逸話の多くが最近になって尽く否定されているが、この第3交響曲の“ナポレオンが皇帝に即位した事を知って激怒し、「献辞が書かれた表紙を破り捨てた」若しくは「献辞とナポレオンの名前をインクで塗り潰して《ある英雄の思い出に》と書き直した”も、どうやら事実とは異なる様だ。ベートーヴェンがナポレオンを賛美していた事は事実だが、これは生涯に亘ったという説があり、皇帝に即位した途端に憎悪に変わったという証拠は無い様である。では、何が英雄なのか？それは、ベートーヴェンが身近にいた日本人のヒデオさんに大変世話になり、その恩を音楽に込めた、なんて事は絶対に有り得ないのだが、スコアの解説にはこの交響曲が公に演奏される様になった1806年にはドイツ・オーストリアが属する神聖ローマ帝国はナポレオンのフランス軍に解体されており、敵国の皇帝を大々的に賛美する事が出来ないので《英雄》という隠語に置き換えた、または第2楽章が葬送行進曲なので存命中の人物に献呈するには失礼に当たると考えた、等と書いてある。結局、本当の事は判らないらしい。

作曲年代は“傑作の森”と呼ばれる時代に当たる。この時代に書かれた代表曲は他にヴァイオリン協奏曲やピアノ協奏曲第4番、ピアノソナタ第23番《熱情》、更には交響曲第5、第6番が含まれるが、第6番を除外したこれらの作品に共通する事は、運命の動機に見られる様な同音連打の音型が多用されている点である。この第3交響曲でも、葬送行進曲の旋律の影で《運命》の様なりズムが常に存在している。この音型はベートーヴェンの創作初期からチラホラと現れているが、この“傑作の森”の時期に多発し、第5交響曲以降は全く姿を見せなくなった。この音型の出所には諸説あり、第5交響曲に於いては「運命が扉を叩く」なんて台詞が有名になったせいか借金取りが扉をノックする音だという説まであるが、もっと信憑性のある説によればこの音型は父親から受けた虐待を象徴しているという。幼児期に受けた暴力はトラウマとなり、その苦痛は作品にまで現れていたのである。だとすれば、この葬送行進曲はその悲痛な響きからも過去の苦痛が表れていると考えられよう。更に、作曲者自身が本気で自殺を考え、遺書まで残している事も加味すると、もしかしたら自分自身に対しての音楽であったのかも知れない。しかし、遺書が生への希望を見出している様に、この音楽も生を欲するが如く躍動するのである。

〈文責：岩瀬 裕実〉

第12回 演奏会 出演者

ヴァイオリン

朝倉 郁子
浅沼 郁子
池田 直美
○井上 譲
内田 幸延
大野 仁子
加藤 紗智子
狩野 幸子
工藤 美保
◎♪黒沢 良夫
小島 昭二
小林 香奈
佐藤 英臣
菅原 陽子
多賀 春美
津久井 尚美
○永山 友紀
橋本 道正
井草 美樹 (賛助)
五位野 高史 (賛助)
小林 実 (賛助)
松永 錦弥 (賛助)

ヴィオラ

饗庭 裕子
佐藤 雅美
♪鈴木 美宏
○田代 克
横塚 清恵
稲葉 満 (賛助)
川島 とも子 (賛助)
後藤 典子 (賛助)

チェロ

○♪齋藤 進午
田代 ひとみ
深町 健太郎
松浦 静子
山口 美枝
森田 健二 (賛助)

コントラバス

○♪日戸 正敏
梅澤 見晴 (賛助)
大館 妙子 (賛助)
中西 秀夫 (賛助)

フルート

上村 知道
小池 淳子
♪白石 真奈美

オーボエ

関口 史子
♪福島 彩

クラリネット

大塩 孝
桑原 淑江
♪高田 和久
和田 智加子

ファゴット

♪松本 和佳子
岡澤 利光 (賛助)

ホルン

秋場 裕美子
♪中野 孝一
星野 由樹
岡田 明子 (賛助)

トランペット

♪大竹 実
松本 博行

トロンボーン

跡部 圭一
♪梅沢 慎二
山上 有造 (賛助)

パーカッション

♪大川 智

◎ コンサートマスター
○ パートトップ
♪ パートリーダー

<役員>

名誉団長 佐藤 英臣
団長 大竹 実

コンサートマスター 黒沢 良夫
低弦セクションリーダー 齋藤 進午
木管セクションリーダー 白石 真奈美
金管・打楽器セクションリーダー 秋場 裕美子

団員指揮者 田代 克
インスペクター 高田 和久
演奏会実行委員長 松本 博行
会計 桑原 淑江

※過去の演奏会

日時	演奏会	場所	指揮者	演奏曲目	作曲者
2007.12.9	2007ファミリーコンサート	大泉町文化むら	直井 大輔	バレエ音楽「くるみ割り人形」 カレリア組曲	チャイコフスキー シベリウス
2008.8.2	第9回定期演奏会	太田市新田文化会館 エアリスホール	直井 大輔	交響曲第2番 ピアノ協奏曲第2番	ラフマニノフ ラフマニノフ
2008.12.20	ウィンターコンサート2008	休泊行政センター 多目的ホール	田代 克	第一部 アンサンブルステージ 第二部 クリスマスフェスティバル 他	- -
2009.6.21	10周年記念 第10回定期演奏会	笠懸野文化ホール パル	田部井 剛	交響組曲「シェヘラザード」 組曲「惑星」より抜粋	リムスキー=コルサコフ ホルスト
2010.1.31	第11回演奏会	笠懸野文化ホール パル	直井 大輔	交響曲第4番 組曲「仮面舞踏会」	ブラームス ハチャトゥリアン

次回演奏会のお知らせ

日時：2011年2月27日(日)
14時開演予定

場所：伊勢崎市境総合文化センター
大ホール

指揮：田部井 剛

曲目：シベリウス/交響曲第2番
ビゼー/《アルルの女》第1・第2組曲

団員(楽器経験者)募集中!!

太田フィルでは一緒に音楽を楽しむ仲間を募集しています。
現在募集中のパートは、以下の通りです。

募集パート：ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス
オーボエ・ファゴット・ホルン・パーカッション

練習日：毎週金曜日 午後7時～10時

練習場所：休泊行政センター 他

申し込み：下記お問い合わせ先に連絡下さい。

練習見学大歓迎です!

お問い合わせ先

電話：090-5819-1453 (梅沢)

H P：太田フィルハーモニー交響楽団で検索してください

E-mail：fwhv3343@nifty.com